

The Jumonji Press

十文字学園女子大学・短期大学部

新座だより

No. 38

2012.5

特集 さあ新学期、輝きを増せ 私たちの学生生活

06▶卒業式・入学式レポート

08▶北京語言大学に続き中華女子学院、安徽外国語学院と調印

10▶2011年度就職報告 厳しい状況のなか就職率は90%超え

14▶十文字ニュース いもプロが宮城県岩沼市訪問／橋本ヒロ子副学長が国連で報告 etc.

18▶若桐会だより／入試・公開講座情報／表現文化学科 開設・短期大学部News

20▶学園創立90周年シンボルマーク



学園創立90周年

シンボルマークが決定!

～明るさ、清楚、芯の強さを表現～

十文字の学生イメージをコンセプトに

十文字学園は学園創立90周年を記念し、学園のシンボルマークをはじめロゴとキャラクターマーク、イメージカラーを作成しました。デザインは元資生堂本社宣伝制作部コーポレートデザイン戦略室長で、今春より本学の客員教授を務める山形季央先生によるものです。作成にあたって、本学園の中学・高校・大学生に対して意識調査を実施。そこから、本学園の学生イメ

ジとして浮かびあがった「明るさ、清楚、芯の強さ」をデザインコンセプトとしています。また、マークを活用することで学園全体のさらなる一体化を図り、女性の力を結集して世の中に貢献するという意志を示しています。今後は、校章とあわせて使用される予定です。



校章

シンボルマーク



「人生の岐路でいつも前向きに出会いを生かす女性であってほしい」というメッセージを込め、また、十文字の「十」の文字のかたちから、デザインに「クロスロード」(岐路)を採用。学園と学生が一体であることを表現。

ロゴ

十文字学園女子大学
JUMONJI UNIVERSITY

幼稚園から大学まで学園のすべての名称を同一書体で統一することで一体感を生み出す。ロゴは、質実で明るい校風を表現するためシンプルな書体に、「クロスロード」の輝きを入れた。また、英字体も用意。

キャラクターマーク



学園の存在感を高めるビジュアルに「十文字ストライプ」を採用。ストライプを人生の階段と見立て、学生がステップアップするイメージを表現。学園を象徴する色には、明るく、純度が高く、女性らしく、かつ強い印象の深紅色を選択。

十文字学園創立90周年記念・短期大学部表現文化学科開設記念講演会

ロバート キャンベル氏

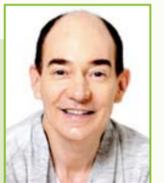
「世界の中の日本文化—Jブングクをどうぞ!—」(仮)

2012年7月21日(土) 13:30~15:30

NHKの番組「Jブングク」や民放のクイズ番組などでおなじみのロバート キャンベル氏をお招きし、日本の文化や文学のおもしろさを、楽しくお話していただきます。公開講演会ですので、ご家族、ご友人とお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

※詳しくは大学のホームページをご覧ください。

ロバート キャンベル
アメリカ・ニューヨーク
生まれの日本文学者。
ハーバード大学大学院
博士課程を経て、現
在、東京大学大学院教
授。専門は、江戸時代から明治時代の日
本漢詩文。趣味は山歩きや観劇など。



編集◆集◆後◆記

能動的に学ぶ姿勢の大切さを、多くの学生に伝えたい。そんな想いで進めているキャンパスライフ活性化計画。学内が一丸となった取り組みにご注目。また、本誌では卒業式・入学式の様子をレポート。十文字学園の学びを生かした

女性の輝きに期待が高まります。

次号からの編集後記の執筆は、岸真裕美新編集長が担当します。今後も学生編集局は企画力に富む誌面づくりに挑戦していきますので、応援よろしくお願いいたします。(水野 遥:編集局長)

*「新座だより」へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jpまで。

新座だより第38号 2012年4月24日発行

発行人:岡本英之

編集局長:水野 遥

監修:大西正行

編集総務:三野裕子

編集事務:篠原 梓

発行:十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28

Tel. 048-477-0555 (代表)

表紙の写真 上:卒業を祝う全体会 下左:入学式 下中央:中華女子学院との調印式 下右:国連で報告する橋本ヒロ子副学長

Talk Session



座談会出席者

齋藤愛利華さん
社会情報学部社会情報学科3年
(代表委員会委員長)

大門兎子さん
人間生活学部食物栄養学科3年
(桐華祭実行委員長補佐)

横須賀薫 学長
松崎正代 学生支援部長

司会

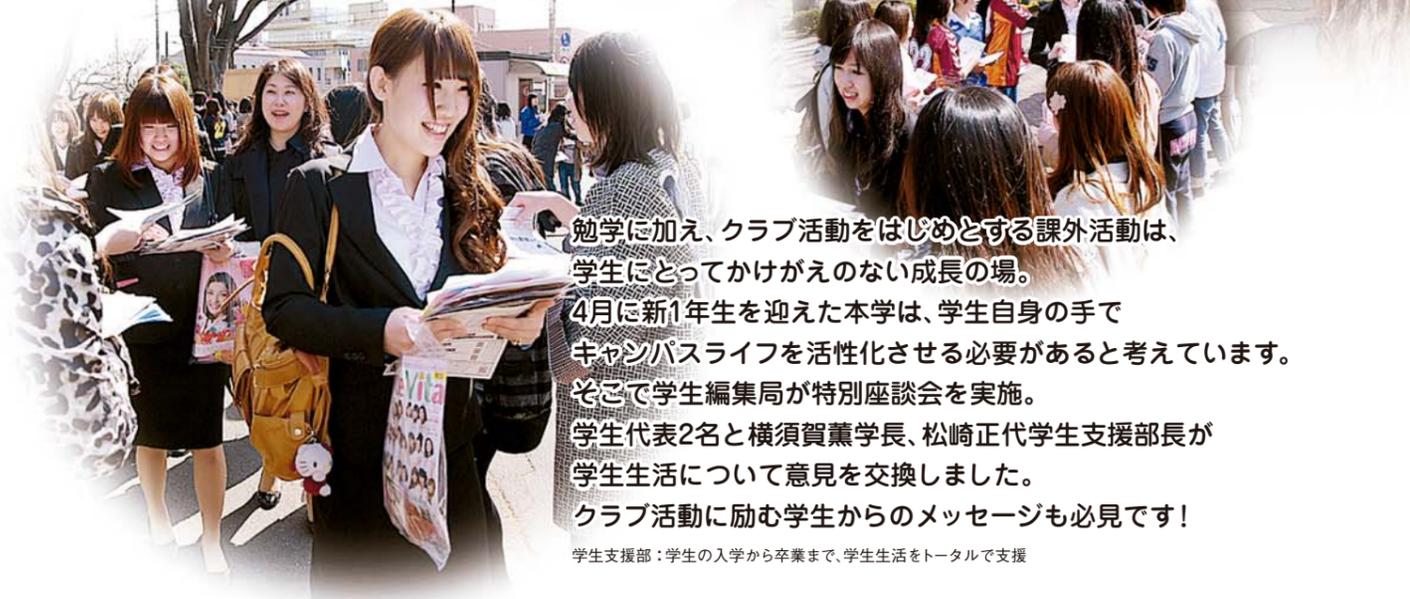
岸真裕美さん
社会情報学部コミュニケーション
学科3年(『新座だより』新編集長)

大嶋理恵さん
社会情報学部コミュニケーション
学科3年(『ナチュラル+文字』
新編集長)



さあ 新学期、
輝きを増せ!

私たちの学生生活



勉学に加え、クラブ活動をはじめとする課外活動は、学生にとってかけがえのない成長の場。4月に新1年生を迎えた本学は、学生自身の手でキャンパスライフを活性化させる必要があると考えています。そこで学生編集局が特別座談会を実施。学生代表2名と横須賀薫学長、松崎正代学生支援部長が学生生活について意見を交換しました。クラブ活動に励む学生からのメッセージも必見です!

学生支援部：学生の入学から卒業まで、学生生活をトータルで支援

二度とない時間を
より創造的にのびのびと

学部・学科の壁を超えた活動を

普段、学生たちのキャンパスライフをご覧になってどのように感じられますか。

横須賀 人間としての成長は、大学で専門分野を勉強しているだけでは達成されず、学生の自主的な活動はとても大事です。しかし、現状は、必ずしも活動が発見されないところがありますね。教職員も一丸となって、学生の自主的な活動が盛り上がるよう、環境整備もあわせて支援していかなくてはなりません。

松崎 「学生支援部」(24年4月発足)のスローガンとして、まさに「学生生活の向上」を掲げており、大学側がどういう形で協力できるかがポイントだと考えています。24年度はコスモス館とけやき館の設備がきれいになりましたし、学生が自身のある学生生活を送るための情報や仕掛けを大学側から提供し、支援していくのも私たちの使命だと感じています。

齋藤 アルバイトで学費を稼ぐ必要がある学生のために、学校側には経済面でのケアを充実させていきたいです。そうすれば、勉学やクラブ活動にあてる時間が増えるのではないかと考えています。

大門 桐華祭では学生の自主的な活動がたくさん見られますが、やはり学生だけでは限界があり、まわりの人の支えがあったからこそ実現できた部分は大きい。私たち桐華祭実行委員会は、2012年度の桐華祭を前年よりもっと盛り上げていきたいと意気込んでいます。昨年の桐華祭で実現しなかった企画も、今年は違った切り口から新しい企画を提案したい。学生、教職員のみさんと協力しながらいいものをつくりあげたいと思います。

齋藤 他大学の学生から、学生参加型の多彩な催



しについてお話を聞きました。今年は十文字でも、学生みんなが参加できる楽しいイベントを増やしたいと思っています。

松崎 援助してほしいことがあったら気軽に相談してください。

横須賀 学部・学科が連携して、ボランティア活動に熱心な学生たちの交流を開いてはどうですか。学生たちを見ていると、今後は学部・学科を超えた交流が課題だと感じています。

学生の積極的な挑戦を応援

新1年生を迎えるにあたって、取り組んでいることはありますか。

齋藤 新学期の1週間、昼休みにクラブ活動を紹介するために準備を進めています。見に来てくれる1年生が少しでも増えるといいですね。体育館を活用してすべてのクラブ活動の様子が見られるようにするなど、少しでも興味を持ってもらえるよう工夫していきたいです。それから、代表委員会とクラブの部長との連携がなかなかうまくとれていないので、これからは力を合わせて意見をまとめていきたいですね。

学生の自主的な活動を応援する一方で、規制も多いように感じますが。横須賀 本学には男子学生がいませんし、大学院生も少ない。もちろん、女子大ならではの多彩なアイデアがたくさん生まれていますが、総合大学などにくらべると活動を推進していく物理的なパワーが弱い場合もあるでしょう。だからこそ、教職員の援助はすごく大切なのです。ところが、学生を守る立場にある教職員側からすると、「援助」と「規制」は背中合わせでもあります。援助と規制の具体的な運用方法については、教職員と学生がしっかりと議論しながら決めていかなければいけない。そうすることによって、活動するための力が蓄積されるでしょう。

松崎 学生の熱意も大切だと思います。学生の企画が大学側に通らなくても、もう一度練り直して提出するくらいの熱意を示してもいいかな、と思います。また、本学では公開講座なども頻繁に開催していますので、地域のひととの交流も視野に入ると、さらに活動の幅が広がると思いますよ。

本日はお忙しいところありがとうございます。

(文：岸真裕美・大嶋理恵)



We Love our Club Activity!

クラブ活動紹介



Shorinji Kempo 未経験者多数！大会を目指して奮闘中

部長 平山千絵（人間生活学部幼児教育学科2年）

少林寺拳法同好会は？
010年に新設した同好会です。週1回活動しており、うち1回は専門の指導者をお招きして練習しています。また、自主的に学外の道場にも通い昇級や大会への出場を目指して仲間と日々努力しています。夏や春には合宿があり、市や県の大会にも積極的に出場するなど、活動はとても充実しています。頑張って修練すれば黒帯をとることも可能です。部員のほとんどが初心者からスタートしましたし、何人かはほかのクラブと兼部しながら練習に励んでいます。一緒に武道を楽しみましょう。

Close up
4

少林寺拳法
同好会

Japanese Flower Arrangement

生け花で感性を豊かに。お免状の取得も可能

部長 小泉文（人間生活学部人間発達心理学科3年）



私たち華道部は月に2回、草月流の先生のご指導のもと、楽しくお稽古に励んでいます。桐華祭では一人ひとりが実力を発揮し、作品を展示しています。また、努力次第で草月流のお免状も取得でき、自分の強みとしてアピールすることが出来ます。私たちと一緒に、お花を生ける楽しみを味わってみませんか？ お気軽に見学にいらして下さいます。お待ちしています。

Close up
1

華道部



Dance 発表の場がいっぱい。多彩なジャンルに挑戦

部長 松本梨沙（人間生活学部人間発達心理学科3年）

私たちダンス部は、部員60名が毎週月曜・木曜日、大学のサブアリーナで練習をしています。ヒップホップやロック、R&Bなどさまざまなジャンルに挑戦しています。ダンス部の最大の魅力は、プロのダンサーを招いてレッスンを受けられることです。夏には合宿を実施し、桐華祭や、ダンス部が毎年3月に主催するダンスイベント、新座の春祭りなど、多彩な発表の場に向けて部員全員で練習を重ねています。少しでもダンスに興味のある方、未経験者、大歓迎です！ぜひ一度サブアリーナに足を運んでみてください。

Close up
5

ダンス部

Soccer

初心者も経験者も気持ちを一つに練習

部長 安間仁子（人間生活学部食物栄養学科3年）



こんにちは！サッカー部です。私たちは火曜・木曜・土曜日の週3回、初心者も経験者も一緒にみんなで楽しく活動しています。サッカーの大会にも毎年出場していて、2011年は東京都女子リーグと関東大学女子サッカーリーグ戦に出場しました。試合でも多く勝つことを目標に、部員の気持ちを一つにして練習に励んでいます。しかし、部員の人数が少ないのが悩みです。新入生・在校生のみならず、私たちと一緒にサッカーをしませんか？ 経験の有無は問いません。ぜひ一度グラウンドにお越しください。お待ちしております！

Close up
2

サッカー部



Agriculture 心をこめて育てた野菜は美味しい！

部長 小野寺歩（社会情報学部コミュニケーション学科3年）

二二三農園同好会は、毎年夏と冬、グラウンド奥の畑で野菜の種や苗を植え、育てています。部員は農作業未経験者がほとんど。慣れない作業は大変で時間もかかりますが、一生懸命育てた野菜はとても美味しく、やりがいを感じています。コーチャボランティアの方々は、天候によって違う野菜の育ち具合など、農業の基本から専門知識まで、活動内容に応じて教わっています。また、地域の方々をお招きし、大学の野菜を使ったカレーパーティーや芋煮会を開いています。一緒に美味しく元気な野菜を育てましょう。

Close up
6

二二三農園
同好会

Japanese Drum

地域の伝統音楽で祭を演出

部長 山田祥穂（人間生活学部児童幼児教育学科3年）



J和太鼓部は、桐華祭を中心に新座市内のお祭りなどで演奏するため、日々練習しています。私たちが演奏するのは創作太鼓ではなく、昔から地域に根づいている伝統的な和太鼓の曲。なかなか耳慣れない曲目もありますが、一から覚えて演奏しています。練習日は週1回と少ないですが、部員みんながよい演奏ができるよう意見を出し合い、練習を重ね、技術向上を目指しています。またまた演奏する機会が少ないので、今後は入学会などのイベントや、地域のさまざまな施設で演奏をしていきたいと考えています。

Close up
3

J和太鼓部

クラブ一覧

本学ではスポーツ系17、カルチャー系31のクラブや同好会が活動し、キャンパスの内々問わず、さまざまなイベントや大会で日頃の成果を発揮しています。

スポーツ系

- 剣道部
- 硬式テニス部
- ゴルフ部
- サッカー部
- スノーボード部
- ~ Brilliant Youth ~
- ソフトテニス部
- ダンス部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- バレーボール部
- フットサル部
- 陸上競技部
- オリエンテーリング同好会
- 少林寺拳法同好会
- ソフトボール同好会
- びくみんず同好会
- ラクロス同好会

カルチャー系

- 演劇部
- 華道部
- 軽音楽部
- コーラス部
- 茶道部
- J和太鼓部
- シネマセラヴィ部
- 写真部
- 十文字ラジオ研究部
- 手話部
- 書道部
- 吹奏楽部
- 声優部
- 箏曲部
- デジタルアート部
- 美術部
- フラワーアレンジメント部
- 文芸部
- 放送部
- 漫画研究部
- Youth Volunteers部
- お菓子研究同好会
- OHANA同好会
- 現代視覚研究同好会
- 子ども交流同好会
- ~ Smile Kids ~
- JJ歩魂同好会
- 電脳研究部同好会
- 東洋哲学同好会
- 二二三農園同好会
- プレイバックシアター同好会
- ホームゲーム同好会

Enrollment

ご入学、おめでとう!

新入生893名が4月5日(木)、
 新座キャンパスの門をくぐりました。



①笑顔の卒業生。②卒業生代表の吉田さん。③十文字理事長と横須賀学長に挨拶する留学生別科の修了生。

Graduation

卒業生712名の門出を祝福

澄みきった青空が眩しい春の日に、晴れ晴れしい表情をした712名の卒業生が本学から巣立ちました。

十文字学園での学びを礎に
 勇気ある社会人に



平成23年度の十文字学園女子大学、短期大学部の学位記授与式、および大学院、留学生別科の修了式が、3月19日(月)に記念ホールで行われた。大学(社会情報学部/人間生活学部)から617名、短期大学部から80名、大学院から第1期生の3名、留学生別科から12名、計712名が保護者、学長、理事長、教職員らから熱い祝福を受けた。

横須賀学長は式辞で、「ここにいるみなさんは、まもなくこの大学を去り、社会へ出ていきます。そこでは大学とは違う、厳しい場面も待ち受けているでしょう。おめでとう、と思うのは今日まで。明日からは、気持ちも認識も切り替えて新しい環境に臨まなくてはなりません」と切り出し、学生生活と社会人生活の違いを「言い訳のきく世界」と「言い訳のきかない世界」と表した。そのうえで、「明日からは言い訳をしない、考えない、使わない、という覚悟で、社会への第一歩を踏みだしてほしいと願っています」

吉田千尋さん(短期大学部 文学科国語国文専攻)は、「十文字学園での勉学は、とても自由で楽しいものでした。いろいろな角度からものを見て考えることを学び、そのおもしろさに気づくことができました。一つのことを深く追求し、自分なりの確かな答えを見つける喜びを知ることができました」と挨拶。「4月からは学生という守られ

ます」と、社会人としての自覚を持つよう激励した。

続いて祝辞に立った十文字一夫理事長は、「考えてみますと、『ありがとう』ございます」という言葉は十個のひらがな10の文字で成り立っています。せっかく十文字という学校で学ばれたのですから、十の文字でできたものがとうございますという言葉、忘れないでください。本学に流れる感謝の気持ちをいつも持ち続けて、これからの人生を歩んでいってほしいと思います」と述べた。

これを受けて、卒業生代表の吉田千尋さん(短期大学部 文学科国語国文専攻)は、「十文字学園での勉学は、とても自由で楽しいものでした。いろいろな角度からものを見て考えることを学び、そのおもしろさに気づくことができました。一つのことを深く追求し、自分なりの確かな答えを見つける喜びを知ることができました」と挨拶。「4月からは学生という守られ

人生最後の学生生活で生涯の友を見つけよう

4月5日(木)の入学式に合わせたように校内で咲きはじめた桜は893名の新入生の初々しさと重なった。横須賀学長は「本学園での時間は、新入生の皆さんの人生で最後の学校生活。小さな一歩でもよいので前に進んでいってください」と激励し、十文字理事長は「女性には社会に出てよく働けるだけでなく、母として子どもを育て上げることも重要です」と説いた。また、丸山晃崎玉新聞社取締役会長から

た立場から卒業し、社会に出ることになります。厳しい現実の壁に突き当たったときに思い出したいのは、ステイブ・ジョブズ氏が残した言葉です。「Stay hungry, stay foolish.(ハングリーであれ、愚かであれ)」この言葉を胸に、何ごとにも明るく、勇気を持って進んでまいります」と結んだ。

式典後は、強風のため縮小されたものの、本学初の試みとして立食パーティーが開かれ、参列者は楽しいひと時を

過ごした。ある卒業生と保護者に「十文字で過ごして感じる(お嬢さんに感じる)変化」を尋ねると、卒業生は「ニュースなどに関心を持ち、社会への意識が高まった」「保護者からは「コミュニケーション能力が身についた」という答えが返ってきた。十文字学園での学びと経験を通してしっかりと成長し、社会へと踏み出す卒業生に、さらさらとした陽が差していた。

(取材・文・高根利佳記者)

は、「大学で考える力を養い、生涯の友を見つけてください。何より大切なものになりますよ」という言葉をいただきました。入学代表の面来小百合さん(短期大学部表現文化学科)は、「専門的な知識とともに幅広い教養を身につけ、信頼される社会人を目指します」と誓った。この日迎えた新しい仲間と一緒に、よりよい学びの場をつくり上げていきたい。

(取材・文・三浦秀佳副編集長)

北京語言大学に続き 2大学と調印

Global Relationships

— 本学とアジア間の女性教育における交流が本格化

本学の郝志強 特命教授が橋渡し

本学の横須賀学長は3月8日(木)から14日(水)まで中国を訪問し、北京の中華女子学院との学術交流協定、合肥の安徽外国語学院との友好校協定にそれぞれ調印。十文字学園女子大学の郝志強特命教授が橋渡し役を務め、両大学トップと留学生の受け入れなどに関する取り決めに合意した。

これにもとづき、安徽外国語学院からは今春、本学の大学学部課程3年次への編入を目指す留学生が留学生別科に入學している。留学生別科での日本語能力水準向上といった支援体制を含め、本格的に編入の道筋がつけられた。

それぞれの協議の過程で、中華女子学院とは日本の女子大学同士で女性が抱える問題の追究、安徽外国語学院とは日本文化理解についての共有が行われ、一昨年の北京語言大学との友好校締結を契機とした本学のアジア全域を視野に置く女性教育交流は、多種多様な本格的な段階に入った。

また、今回の中国訪問には、大西正行国際交流センター長(留学生別科長)、大石聡国際交流支援部長、山地優子同部員(募集兼通訳)が随行した。横須賀学長は、前任校・宮城教育大学の教え子である上海の華東理工大学外国語学院日本語主任・児童文学(宮沢賢治)研究家の黄育紅博士とも面談。十文字学園女子大学の積極的な留学生受け入れ施策などのアピールに努めた。(教授 大西正行記)

安徽外国語学院

Anhui Foreign Languages University



① 学長による日本文化の特別講義。② 洪院長(右から2人目)と張東方言語学院院长(右)。③ 調印式。

横須賀学長が「日本文化」の特別講義

3月12日に調印式が行われた安徽外国語学院では、洪祥生院長、張兆玲院長代理、同学院の日本語教育を担う張勝芳東方言語学院院长らが横須賀学長と会談し、友好交流の意義を確認し合った。今回の協定では、安徽外国語学院による「共同学位取得プログラム」に合意。プログラムの柱は以下の2点。

- 安徽外国語学院で2年間学んだ学生の単位を本学が認定し、3年次編入生として受け入れる
- 原則として、本学は半年間の日本語教育と編入後2年間の専門教育を担当。卒業要件を満たした留学生に本学の学位を授与

また、調印式に伴い、本学から計470冊の書籍(目録)を同学院へ贈った。協定調印後、横須賀学長は安徽外国語学院大講堂で約500名の学生に特別講義を実施。歌人・俵万智、正岡子規、柿本人麻呂の短歌を学生が読み、その意味を答えてもらう双方向スタイルで進化した。この中で、横須賀学長は日本人の美意識の源流である短歌の構造や味わいを教え、日本語の奥にある豊かな自然観について説明した。また、本学の環境のよさと学科の概要などについても説明し、女子学生の志を刺激した。なお、安徽外国語学院から横須賀学長に対して「名誉教授」の称号が授与された。

安徽外国語学院(合肥)

2000人が日本語を学ぶ

安徽省唯一の専門的な外国語大学。2011年に全日制本科大学に昇格。国家森林公园園景勝地に位置し、広大な敷地にヨーロッパ式建築の学舎が建つ。在校生数7000人。東方言語の柱として約2000人が日本語を学ぶ。



中華女子学院

China Women's University



① 中華女子学院の長校長とともに(前列右)。② 今後の友好を協議。③ 調印式。

留学生の健康面・就職支援施策を説明

3月9日に調印式が行われた中華女子学院では、女性学の研究で名高い長李宝校長、李明舜副校長らが本学教員との研究交流などに期待を寄せ、横須賀学長も人的交流による教育研究の活発化を表明した。今回の合意内容の一部は以下の通り。

- 中華女子学院から推薦された2年次以上の留学生希望者を本学が受け入れる
- 留学生が本学の卒業要件を満たし、中華女子学院の論文審査に合格した場合、両校の学位を取得できる
- 本学の大学3年次編入資格は、学歴資格と一定の

日本語能力水準にもとづくこと。日本語能力充足を要する場合は留学生別科で受け入れる

訪問団は中華女子学院首脳との懇談の中で、留学生向けに実施している学習、健康、就職における相談対応など、本学のきめ細かな取り組みについて説明した。特に、健康管理センターの設備リニューアル、保健師・看護師の常駐など、健康面への不安を和らげる万全な体制について紹介。就職面については、国際交流センターの専門職員による相談対応、就職情報提供、留学生向け就職セミナー、資格取得のアドバイスなどをアピールした。

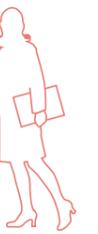
中華女子学院(北京)

女性幹部教育に邁進

国に承認された唯一の女子大学。女性幹部育成で知られる高水準の高等教育機関。全日制在校生は約5000人。女性教育の発展、向上、先進的なジェンダー文化をリードし、女性の国際交流に貢献。



厳しい状況のなか 就職率は90%超え



東日本大震災や長引く不況の影響で、不安定な就職活動を強いられる2011年度、厳しい状況にもかかわらず本学学生は上々の結果を残しました。

キャリアセンター長 本間 修
震災や経済の不透明感で不安定だった就職活動
専門職の就職率は約100% 一般職でも大健闘

東日本大震災は、学生の就職活動にも大きな影響を及ぼし、多くの企業で採用数やスケジューリングなどの見直しが行われた。大手企業を中心として選考開始時期は通常の4月から1〜2カ月遅れとなるところが多く、全体的に就職活動が長期化する原因となった。

このような厳しい状況のなか、本学学生も就職活動に取り組んできたが、2010年度同様、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、栄養士、介護職といった専門職への就職については、伝統的な強みを十分に発揮して、3月末現在で100%に迫る就職率を確保する見込みである。一方、事務職、販売職、サービス職といった一般職への就職活動は昨年同様の厳しいものとなったが、就職率は大学で90%以上、短大で80%以上と健闘を見せた。

女性の活躍に期待する 企業が増えている

キャリアセンターでは毎年多くの企業を訪問しており、人事担当者や意見交換をするなかで、本学卒業生が結婚や出産といった大きな人生の節目を経て、また活躍し、それぞれの企業に貢献し続けているという嬉しい声を多く耳にする。最近では「男

子社員以上に活躍する女子社員が増えた」「女子社員の積極性が目立つ」といった女性の能力が高く評価する声も頻りに聞かされた。女性が活躍しやすい土壌が社会に育ってきていて、多くの企業が女性に期待を寄せて

いる。これは、本学学生が十分に力を発揮できる場所が限りなく存在していることを表している。「社会が自分を待っている」という希望を持ち、本学で学んだ十文字精神を自信として、次年度も就職活動に臨んでほしい。



笑顔で窓口業務に立つ江田さん(右)。

まで頑張ることができたと思います。担当しているお客様からはじめて口座作成をご依頼いただいたときは、本当にうれしくて、帰宅してから泣きました。大変な仕事ですが働きがいがあり、毎日充実しています。社会人になると、自由な時間は限られます。どうぞ今を大切に。悔いのない学生時代を過ごしてください。

編集後記

入社1年目とは思えないほど、笑顔がまぶしく生き生きとしている江田さんにお会いできて、現在も未来も大切に頑張ろうと思いました。

(取材・文 久家未有副編集長)

OG訪問

先輩からのメッセージ

学生時代の「いま」を大切に

江田千泰さん (23)

2011年3月人間生活学部人間発達心理学科卒業
2011年4月巣鴨信用金庫入庫、新座支店勤務

接客する仕事を希望して就職活動をしていました。活動を進めているうちに「一緒に働きたい」と思う方々が増え、未来像を描ける環境が整っている現在の会社に就職しました。

社会人になってからは毎朝家を出る前に、電車の運行状況をチェックする習慣ができました。はじめのころは知識がなく、お客様の問い合わせに答えられずに先輩に対応をお願いすることが多く、悔しい思いをしました。失敗を恐れずに何でも取り組んでみて、そのうえで「ああ、失敗した!」と思えたほうが、自分のステップアップにつながります。先輩にフォローしていただき、お客様にも温かく見守っていただいて、ここ

Data

2011年度卒業生の主な就職先

社会情報学部

- マルヤ
みずほビジネスサービス
三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ
光村印刷
三松
三芳合金工業
ユアソフト
洋菓子のヒロタ
ヨークマート
ロッテ
ワタミの介護
ワールドストアパートナーズ
常盤幼稚園
豊春幼稚園
なみきの幼稚園
野田聖華幼稚園
八幡幼稚園
ひかりの子幼稚園
ひかり幼稚園
ほつや幼稚園
ホザナ幼稚園
宮久保幼稚園
八潮幼稚園
谷塚おざわ幼稚園
与野幼稚園
私立保育所
泉町保育園
柏井保育園
こぶし保育園
白菊保育園
鶴我保育園
たんぼほ保育園
茶々おおいずみ保育園
東京自由保育園
八一モーター保育園
松の実保育園
緑の森保育園
横田保育園
愛泉乳児園
東大成 植竹小学重保育会
一般企業
三井ホーム
二越伊勢丹ヒューマンソリューションズ
関東タイエットクック
グリーンハウス
山和食品株式会社
社会福祉法人 永寿荘
社会福祉法人 賛育会
社会福祉法人 正生福祉会
社会福祉法人 天寿園会

人間生活学部

- 東京福祉法人 東京児童協会
社会福祉法人 つなん福祉会
社会福祉法人 恵福社
社会福祉法人 ひまわり会
西洋フードコンパニオン
セブン&アイフードシステムズ
東洋食品
ニッポクトラスト
日清医療食品
ひまわり保育園
富士産業
ベストフードサービス
ペネニール
丸和油脂
メフオス
レオック
若菜
ワタミの介護
川口信用金庫
ソリューションズ
みよの台薬局グループ
りそなグループ
社会福祉法人 東京児童協会
社会福祉法人 つなん福祉会
社会福祉法人 恵福社
社会福祉法人 ひまわり会
西洋フードコンパニオン
セブン&アイフードシステムズ
東洋食品
ニッポクトラスト
日清医療食品
ひまわり保育園
富士産業
ベストフードサービス
ペネニール
丸和油脂
メフオス
レオック
若菜
ワタミの介護
川口信用金庫
ソリューションズ
みよの台薬局グループ
りそなグループ
社会福祉法人 東京児童協会
特別養護老人ホーム 多摩の里むさしの園
社会福祉法人 カリア会
社会福祉法人 きずな会
社会福祉法人 嬉泉
社会福祉法人 京悠会
障害者支援施設 円野
社会福祉法人 ケアネット
特別養護老人ホーム はなみずき
社会福祉法人 慶校会
特別養護老人ホーム まんざくの里
社会福祉法人 けぎの郷
社会福祉法人 こうほうえん
特別養護老人ホーム うきま幸福苑
社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会
社会福祉法人 東京弘済園
特別養護老人ホーム 弘済園
社会福祉法人 徳心会
社会福祉法人 戸田市社会福祉事業団
社会福祉法人 戸田わかく社会
社会福祉法人 ともしき会
社会福祉法人 長岡福祉協会
知的障害者更生施設 新橋はつらつ太陽
社会福祉法人 はるび
特別養護老人ホーム はるびの郷
社会福祉法人 東松山市社会福祉協議会
社会福祉法人 福栄会
社会福祉法人 豊立会
特別養護老人ホーム 玲光苑
社会福祉法人 めだかすとりいむ
常盤幼稚園
豊春幼稚園
なみきの幼稚園
野田聖華幼稚園
八幡幼稚園
ひかりの子幼稚園
ひかり幼稚園
ほつや幼稚園
ホザナ幼稚園
宮久保幼稚園
八潮幼稚園
谷塚おざわ幼稚園
与野幼稚園
私立保育所
泉町保育園
柏井保育園
こぶし保育園
白菊保育園
鶴我保育園
たんぼほ保育園
茶々おおいずみ保育園
東京自由保育園
八一モーター保育園
松の実保育園
緑の森保育園
横田保育園
愛泉乳児園
東大成 植竹小学重保育会
一般企業
三井ホーム
二越伊勢丹ヒューマンソリューションズ
関東タイエットクック
グリーンハウス
山和食品株式会社
社会福祉法人 永寿荘
社会福祉法人 賛育会
社会福祉法人 正生福祉会
社会福祉法人 天寿園会

短期大学部

- 赤坂栞山
アストリア
ウイズネット
内野建設
エレミック
大倉工業
オンワード樺山
国分ビジネスサポート
コスモ調剤薬局
サイケイ
全農・キュービー・エツグステーション
大観社
デメルジャパン
東京信用保証協会
東京モバイロネットワーク
図書館流通センター
図書館流通センター
ニッポンレンタカー埼玉
ハリウッドランドシティ
ペネッセスタイルケア
丸山園
宮坂米菓
村中医療器
明治安田生命
よしや
陸上自衛隊(自衛官候補生)

2012年度
教員役職紹介

人事異動 (2012年3月31日～4月1日)

教員

【大学】

<退職>任期満了・定年退職含む

人間生活学部教授 ……アンソニー・ルファ
同教授 ……井口磯夫
同教授 ……岡村佳子
同教授 ……黒瀬任通
同教授 ……齋川富夫
同教授 ……曾我淑人
同教授 ……安岡芙美子
21世紀教育創生部教授 ……柳本雄次
人間生活学部助手 ……為積沙奈絵
同助手 ……鈴木 香
人間生活学部特別任用教授 ……江川政成
同特別任用教授 ……杉原 隆
<新任・特別任用教員>

人間生活学部教授 ……伊藤恵子
同教授 ……津吹 卓
人間生活学部准教授 ……川瀬基寛
同准教授 ……潮谷恵美
同准教授 ……鈴木康弘
同准教授 ……横山貴美子
人間生活学部講師 ……宮野 周
同講師 ……藪崎伸一郎
同講師 ……山下倫実
人間生活学部有期助手 ……青木己奈
同有期助手 ……片山友子
同有期助手 ……加藤亮介
同有期助手 ……鴨下澄子
同有期助手 ……小林直美
同有期助手 ……芝崎本実
同有期助手 ……増澤拓也
21世紀教育創生部特別任用教授
……岡林正和
21世紀教育創生部講師 ……石川敬史

<客員教授>
客員教授 ……佐々木正峰
客員教授 ……湊 和夫
客員教授 ……山形季央

客員教授 ……好本 恵
客員教授 ……渡辺 保
<特命教授>
特命教授 ……大橋佳代子
特命教授 ……郝志强
特命教授 ……川口泰一
特命教授 ……関 潤一
特命教授 ……丸山 晃
<昇任>

人間生活学部准教授 ……加藤陽子
同准教授 ……宮内寿彦
人間生活学部講師 ……太田眞智子
人間生活学部助教 ……山崎優子

<役職>
人間生活学研究科長 ……横須賀薫
人間生活学研究科食物栄養学専攻主任
……志村二三夫
共通教育センター長・教職課程センター長
……増田吉史
共通教育センター十文字学WG主任
……宮城道子
共通教育センター語学教育WG主任
……島村豊博
共通教育センター保健体育WG主任・児童教育学科長
……山本 悟
共通教育センター情報処理WG主任
……中尾茂子
共通教育センター課題教育WG主任
……小笠原典子

【短期大学部】

<定年退職>
文学科教授 ……浜由美子
<新任教員>
表現文化学科有期助手 ……細谷朋子
<昇任>
表現文化学科教授 ……シーラ・クリフ
表現文化学科准教授 ……小林 実

<役職>
表現文化学科長 ……武田比呂男

【幼稚園】

<新任>
教諭 ……上野敦子
<嘱託教員>
主事 ……大井登子

事務職

<役職>
事務局長 ……瀬倉通利
法人副本部長 (理事長付) 兼学長特命部長 (大学改革担当) ……岡本英之
総務部長 ……木名瀬正行
総務部次長 ……柳澤貞夫
総務部次長 ……笠木貴和子
会計課長 ……榎本圭司
管財課長 ……鈴木俊太郎
社会交流・研究支援部長 ……安達貞治
社会交流支援課長 ……浅川隆一
研究協力課長 ……鈴木正章
学生支援部長兼法人副本部長 ……松崎正代
学生支援部次長 ……小池哲夫
学生支援部次長 ……川口憲次
教職支援課長 ……岡本美紀
学生生活課長 ……小貴裕巳子
就職支援部長 ……本間 修
就職支援部次長 ……郡司忠正
就職支援部次長 ……高野 明
募集・入試部長 ……藤井宏昌
募集・入試部次長 ……田村雄二
募集・入試部次長 ……宮原隆宏
募集・入試課長 ……安達美奈子
国際交流支援部長 ……大石 聡
学術情報部長 ……近藤秀二
教育研究システム課長 ……井頭雄二
事務システム課長 ……戸塚勝美
カウンセラー室副室長 ……進藤なり子



増田吉史

副学長(教育担当) / 共通教育センター長 / リメディアル教育センター長 / 教職課程センター長



志村二三夫

副学長(総務担当) / 人間生活学研究科食物栄養学専攻主任



横須賀 薫

学長(大学・短大) / 人間生活学研究科長



大西正行

留学生別科長 / 国際交流センター長



東 聖子

学長補佐



橋本ヒロ子

副学長(募集・就職担当) / キャリア教育センター長



星野敦子

大学開放・地域連携推進センター長



齋藤麗子

健康管理センター長



安達一寿

図書・情報センター長 / メディアコミュニケーション学科長



綿井雅康

人間発達心理学科長



山本 悟

児童教育学科長



坪倉紀代子

幼児教育学科長



岩井雄一

特別支援教育センター長



武田比呂男

表現文化学科長



牧村信之

生活情報学科長



栗原直樹

人間福祉学科長



濱口恵子

食物栄養学科長



地域活性化プロジェクト 『いもプロ』 宮城県 岩沼市 訪問レポート

本学の学生5名が、新座産のサツマイモを使って地域活性化を図る『いもプロ』。活動を通して得た義援金を持って、被災地の宮城県岩沼市を訪れました。

岩沼市訪問・活動報告

報告者 人間生活学部児童教育学科
浅見康名 黒崎葉里 小林優由子 樹森亜季 西野茉奈実

一日 2月21日
12時ごろ岩沼駅に到着。岩沼市教育委員会の佐藤修司副参事に迎えていただき、岩沼市内を案内してもらった。まず、竹駒神社に向かい、今回の訪問の成功を祈願。その後、市役所で影山一郎教育長、内海俊行教育課長に挨拶し、震災当時の様子をうかがった。次に玉浦中学校を訪問した。校内にある展望台から、津波が到達した場所を教えていただいた。校長先生から、1年が経ってもフラッシュバックに苦しむ生徒がいると聞き、胸が痛んだ。最後に、津波の被害がまだ残っている沿岸付近、仙台空港の周辺を車で案内していただいた。復興までの道のりの遠さが身にしみた。

二日 2月22日
8時に玉浦小学校に到着。大沼吉朗校長をはじめ先生方に挨拶し、21万4000円の義援金をお渡しした。8時30分岩沼市の広報の方から取材を受ける。その後、それぞれが配属されたクラスの授業補助に入る。子どもたちがとても元気で安心する。放課後、校長先生に震災当時の様子をうかがった。大変な状態を乗り越え、学校を再開された先生方の努力に感動した。

三日 2月23日
8時に玉浦小学校に到着。この日も配属されたクラスの授業補助に入る。各クラスで時間をいただき、『いもプロ』の活動をまとめたパワーポイントを子どもたちに見てもらった。子どもたちが真剣に聞いてくれたことがうれしかった。協力してくださった皆さんの方々の思いを伝えることができたと思う。校長先生や教職員の方々に挨拶し、15時に玉浦小学校をあとにした。東日本で起きたことを、私たちは決して風化させない、そう強く思う。

21万円を被災地の小学校に寄付

2011年5月に発足した『いもプロ』。新座の特産品を目指す芋焼酎「指月鳴」の原料となるサツマイモの栽培に協力し、収穫後に500kgのサツマイモをわけていただいた。『いもプロ』はこれを東日本大震災復興支援につなげたいと考え、お菓子「スイーモ」を考案。イベントで販売した収益21万4000円をすべて義援金とし、メンバー5名が、2月21日(火)〜23日(木)、宮城県岩沼市玉浦小学校を訪問。校長に直接手渡した。

日本政府が初めて提案した決議案が採決 女性の防災への積極的な取り組みを促進

2012年2月27日(月)から3月9日(金)、アメリカ・ニューヨークの国連本部で、「第56回国連婦人の地位委員会(CSW6)」が開催され、日本政府代表として参加した。今回の優先テーマは「農山漁村女性のエンパワーメントおよび貧困・飢餓撲滅・開発・今日的課題における役割」。代表としての声明も、日本の農山漁村女性のエンパワーメントのための政策を中心に報告した。テーマの性質から、アフリカからの参加者が多く、いつもは男性外交官ばかりの国連の会議場は女性の華やかさが目立った。日本政府はCSWでは初めて、決議案「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント」を提出。NHKをはじめ、日本からメディアが6社ほど取材にきていた。この決議は、東日本大震災から1年が経つこの機会に、自然災害と女性に関するさまざまな課題について、わが国が震災から学んだ教訓を各国と共有し、国際社会の理解を深めることを目的としており、今回、合意・採択された。女性、子ども、障がい者、高齢者に、より配慮する内容になっており、女性が防災、復興に参加できるような取り組みの促進を各国に提案していった。決議および決定案は合計7本が採択されたが、合意結論は難航し、閉会後の翌週、各国代表部が再び会合を開いて討議したが合意できなかった。

(副学長橋本ヒロ子記)



内閣府男女共同参画局長などが参加した日本政府代表団。



声明を読む橋本副学長。農水省室長、NGO代表と一緒に。

撮影/国立女性教育会館専門職員 越智方美さん

「健康寿命を延ばそう」を合言葉に料理教室開催 定員を超え大盛況。昨年参加した顔ぶれも

昨年に引き続き、野火止公民館から依頼を受け、2月16日(木)に「地域を進める介護予防講座」を本学で開催した。講師は私(食物栄養学科教授長澤伸江)が調理実習は鈴木香助手(3月末退職)が担当した。「食事を通じてできる内部被ばく対策」の講義は、バランスのよい食事と調理の工夫で内部被ばく対策ができるという内容で、さまざまな工夫を凝らした調理実習を実施。講座の合言葉は「健康寿命を延ばそう」である。さらに、高齢者は1回の食事で作ったおかずが余り、数日間同じおかずが続いてしまうことが多いと、和食の献立を中華風と洋風にアレンジした2種類の献立を考案し、実習。グループに分かれ、1種類ずつ調理した。また、長澤ゼミの3年生が、食事バランスガイドに掲載されているコマの形のエプロンを使って、バランスのとれた食事の摂り方を紹介し、調理実習では調理のアシスタントを務めた。

参加者数は募集定員を超える37名(うち男性3名)。ある80歳の女性は、昨年の調理実習のレシピを出して、「これを教えてくれた先生はいらっしゃいますか」と話しかけてくれた。また、ある70歳の女性は、「今日習った献立でパーティーするの」と、試食する前から楽しそうに話してくれた。また、昨年開催した講義「生活習慣病にならないために」健康は栄養バラ

「もっと早く、正しい食事の摂り方を教えてもらう機会があればよかった」と話していた。

試食では、実習の2グループが向かい合って座り、それぞれの料理を試食するにぎやかな食事会となった。その楽しさに、初めて参加された方からは「去年も参加すればよかった」といった声もあがるほどだった。

(教授長澤伸江記)



今年もリーダーズキャンパスが大成功！

1泊2日の研修で大学活性化について考える

リーダーシップ養成のための「リーダーズキャンパス2012」が2月27日(月)、28日(火)の2日間、本学の学生企画委員とキャリア企画委員の共催で行われた。例年、この研修は国立オリンピック記念青少年総合センターで実施されており、今回は人間生活学部、社会情報学部、短期大学の53名に加え、教職員も24名が参加し、多くの方々の協力を得て無事終了した。

研修では、まずリーダーシップについて学び、最終日の2日目には10のグループに分かれ、学生が大学活性化プロジェクトを企画。コンペ形式でプレゼンテーションし、アイデ

アを競った。

教職員と学生による審査の結果、以下の3プロジェクトが優秀賞として選ばれた。

One for all 十文字Role for one

学園創立90周年を記念して、みんなで長いロールケーキを作り、繋がりを感じながら90周年を祝う

Pot Luck 十文字なでしこ化計画

学際を超えた交流をするために、みんなで食べ物を持ち寄った交流会を実施

十文字オリジナルクオリティ

「マナー向上計画」

すてきな女性を目指すため、学生発信のスタイルでマナーを向上。具体的な内容は「恵山通りでのあいさつ」

「授業中、廊下でのあいさつ」

「マナー向上委員会の立ち上げ」

これらの企画が実現できるよう、春からの活動に期待したい。

(企画アドバイザー/准教授松永修一記)



多彩なジャンルが集まるダンスイベントを開催

年代を超え、心をひとつに踊る楽しさを堪能

3月4日(日)、ダンスイベント「リーダーズセミナー20回記念公演『新たな挑戦』」の瞬間(とき)を感じて」が、国立オリンピック記念青少年総合センターの大ホールで行われた。主催は、生涯スポーツにおけるよりよい指導者の育成を目指して研究する「日本リズムムーブメント指導者協会」。

ホールでは、平均年齢62.5歳、総勢70名が2時間にわたって全9作品を踊った。県外(山口県22名、佐賀県30名)からもダンスに親しむ仲間が友情出演として駆けつけ、情熱的にステップを踏んだ。また、タンゴなどの音楽で用いられるバンドネオンの心を揺さぶる生演奏もあり、観客約1000名が堪能した。

ダンス作品はタンゴ、ジャズ、バラード、コンテンポラリーなど、さまざまなジャンルがあり、イベントのフィナーレでは、アップテンポにアレンジされた「上を向いて歩こう」に合わせ、舞台も観客席も一緒に拍手し、みんなで歌い、踊りながら幕を閉じた。

ダンサーたちは最後まで元気な笑顔が印象的で、観客たちは口々に、「感動した」「元気もらった」「頑張る気が湧いた」「すてきだった」など、年代を超えたダンスの発する力を全身で受け止めていた。

今回の舞台監督は、日本大学芸術学部4年の鳥飼真由佳さん。運営サポートとして、十文字学園女子大学から1年生と2年生10名の



食物栄養学科から食と運動の専門家を輩出

多くの学生が健闘し、専門スキルを修得

人間生活学部食物栄養学科では、フードスペシャリスト資格認定試験と健康運動実践指導者認定試験について、積極的に受験を促している。

フードスペシャリスト資格認定試験は昨年12月18日(日)に本学で行われ、受験した学生81名全員が合格というすばらしい結果となった。全国の合格率は83.5%、そのうち大学および短期大学の合格率は、それぞれ89.7%、75%だった。今回の試験で、110点満点のうち100点以上の合格者が全国で13名おり、特別表彰を受けたが、惜しくも本学の最高得点は98点。例年、協会から各校の成績優秀者

1名に賞状が送られ、今回最高得点をとった学生は卒業式・学科の集いで表彰された。

一方、本学では2009年に健康運動実践指導者養成校になり、昨年11月に初めての実技試験、12月から今年2月にかけて筆記試験に挑んだ。結果は受験者36名中28名の合格、合格率77.8%。全国の合格率は大学で67.1%、短期大学で38.4%、専門学校で48.8%と、本学はそのすべてを上回っている。本学から受験した学生は実技テストは全員合格したが、筆記テストで8名が残念な結果となってしまった。本学の受験生は管理栄養士養成課程の学生であり、12月から2月の筆

記試験期間はちょうど栄養士実力試験、臨地実習、後期試験などが重なったことも原因と考えられる。しかし、体育系の分野を専門に学ぶ受験者が多く、本学の結果を見ると、学生たちは非常に健闘したと言えるだろう。



ニュース時事能力 検定協会から表彰

本学は、「ニュース時事能力検定試験」を主催する日本ニュース時事能力検定協会より「団体賞」を受賞した。昨年度は、多数の合格者を出したことに加え、本学の時事問題に対する教育が高く評価され、今回の受賞に至った。今後も引き続き、この検定に対する取り組みを強化することによって、多くの学生に、社会への関心を高めてもらうよう努めたい。



平成23年度 学業成績優秀者 今春の卒業生18名を表彰

卒業学年対象の学業成績優秀者として社会情報学部4名、人間生活学部10名、短期大学部4名、計18名が表彰された。

社会情報学部	社会情報学科	三上 舞 志村桃香
	コミュニケーション学科	坂下 惠美 清水かおり
人間生活学部	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	井上理紗子 島田 瞳
	児童幼児教育学科 児童教育専攻	新荻彩加 原口彩香
	食物栄養学科	小林夏美 深井綾子
	人間福祉学科	澁谷めぐみ 北村千夏
短期大学部	人間発達心理学科	本間百合子 関根冬羽
	文学科 国語国文専攻	瀧澤直子 森 美紀
	文学科 英語英文専攻	朝野慧美 山口智子

学生の総合 相談室を開設

本学7号館4階に学生総合相談室がオープンした。平日の9時から19時まで相談を受けつけており、学生生活はもろろん経済面や人間関係など、どこに相談してよいかわからないことも気軽に相談できる。相談室では、相談員が話を聞き、場合によっては、より適切な相談窓口へと引き継ぎ、問題の解決を図る。また、ハラスメント相談室としての機能も備える。



志村二三夫教授が 厚生労働大臣表彰

志村二三夫教授(副学長・大学院人間生活学研究科食物栄養学専攻主任)は昨年8月、長年にわたり栄養士の養成に貢献した功績を評価され、厚生労働大臣表彰を受賞。管理栄養士国家試験委員、厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員なども務め、2010年には埼玉県栄養士養成成功者知事表彰を受けている。



2012年
4月新設

短期大学の文学科が 表現文化学科として生まれ変わりました!

十文字学園女子大学短期大学部は、39年の歴史と約1万人の卒業生が創り上げた「文学科」の伝統を礎に、このたび新たに「表現文化学科」を始動させました。教育の柱は、国際化時代における「日本文化の発信」「異文化理解」「クリエイティブな表現力」。また、生きる力(ライフスキル)、社会人力、人間力を、しなやかにたくましく育てていきます。

表現文化学科の3つのコース

- 日本語・日本文学コース
- 文化デザインコース
- 英語コミュニケーションコース

*短期大学の2年生は第39期文学科国語国文専攻・英語英文専攻となります。新体制では、1、2年生が交流しながら学びの環境をつくっていきます。

短期大学部 News

第2回 表現文化大賞を実施

新学科のスタートを記念して、今年で2回目となる「表現文化大賞」を公募します。埼玉県から世界へ、みずみずしい感性あふれる作品を発信しましょう。

応募要項

テーマ: ジャンル1「再生」をテーマに詩を書く
ジャンル2 表現文化学科のマスコットキャラクターを描く

*エントリーはどちらか1ジャンルのみ。

応募期間: ~5/31(木)まで

応募資格: 現役高校生、本学大学・短期大学部在学学生、同卒業生

応募先: 短期大学部表現文化学科研究室

賞品: 多数

発表: 7月

*詳細はホームページでご確認ください。
(<http://www.jumonji-u.ac.jp/>)



日本語検定に向けた万全な対策

2010年度より国語国文専攻で実施している「日本語検定」の団体受検。新学科では、検定での認定に向けた取り組みをより充実させます。1年次必修科目「日本語表現」では、日本語検定の出題内容に合わせた内容を学習。テキストの表紙は表現文化学科オリジナルです。なお、過去2年間の取り組みで、3級(社会人初級レベル)の認定率は準認定を含めて約7割。確かな日本語力は社会人の必須スキルです。今年度も検定直前対策講座を行い、受検者の日本語力をサポートします。2012年度は、6月15日(金)、11月9日(金)に本学を会場として実施。多くの学生の受検を期待しています。



横須賀黨学長のご挨拶(昨年度の総会)。

総会は、23年度事業報告・会計報告、24年度事業計画案・予算案を審議し、続いて懇親会を開催いたします。懇親会では恩師とともに卒業生が部会ごとにテーブルを囲み、近況報告や情報交換をしながら美味しいお料理をいただきます。

会員の皆様でお誘い合わせのうえ、多数ご出席くださいますようご案内申し上げます。同封の出欠席はがき

■第44回
「若桐会総会」開催のご案内
日時:平成24年6月3日(日)12時より
場所:本学7号館1階カフェテリア

昨年の東日本大震災により、甚大な被害を受けられた方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。



※詳細については、「この『新座だより』」に「若桐会総会のご案内」出欠席はがきを同封いたしましたので、ご覧いただけますようお願い申し上げます。

第5回還暦のお祝い 還暦を迎えた卒業生を 若桐会総会にご招待!

「招待の卒業生:昭和47年3月卒業生」ご招待の学科名:家政科・幼児教育科

本年も「還暦を迎えた卒業生」を若桐会総会へご招待いたします。同窓会創立40周年記念行事として始めたこの企画も、おかげ様で皆様から好評をいただき、本年で5回目を迎えることとなりました。還暦を迎えられた皆様はとも若々しく、久しぶりに旧友との再会を喜ぶ姿がとても印象的です。

卒業から40年、すてきな歩みを重ね、今、人生の折り返し点を迎えられる5期生の皆様に、ささやかではあります、心をこめて「還暦のお祝い」を申し上げます。十文字という縁で結ばれた心のバトンを力強くつ

住所、氏名等の変更は本学同窓会「若桐会」までご連絡ください

十文字学園若桐会 各部会 (卒業学科)

TEL: 048-477-0555 (代表)

FAX: 048-478-9367

*卒業学科・卒業年を必ず明記のうえお送りください。



小林実先生と国文会卒業生。

なぎ続けていきましょう。

家政科・幼児教育科5期生の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひ母校へお運びいただけますようご案内申し上げますとともに、多くの方のご出席をお待ち申し上げます。同封の「出欠席はがき」に必要事項をご記入のうえ、ご投函ください。

Extension News

公開講座のご案内

今年度も公開講座・講演会を開催します。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

講演会
「100年前の女の子からのメッセージ」

日時▶ 7月7日(土)

講師▶ 船曳由美氏(フリージャーナリスト)

講演会
「山川菊栄・その人と活動-監督とのトーク&シネマ」(仮題)

日時▶ 11月17日(土)

コーディネーター▶ 山上千恵子氏(ドキュメンタリー映像作家)

予約方法/お問い合わせ先

参加ご希望の方は、各講座の1カ月前よりご予約ください。先着順で定員になり次第締め切ります。

お申し込み・お問い合わせ先

大学開放・地域連携推進センター

E-mail: ext@jumonji-u.ac.jp

TEL: 048-477-0958(直通) *平日9時~17時、土曜日9時~13時

FAX: 048-477-0764

受講希望の講座名および日にち・氏名(ふりがな)、電話番号・講座をお知りになった媒体をご記入のうえ、お申し込みください。

*メールでのお申し込みの場合は、「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」となります。

Admission Info

オープンキャンパス&入試情報

オープンキャンパス&大学院入試情報

オープンキャンパス

日程▶ 5月27日(日) 6月17日(日)
7月8日(日)・22日(日)・29日(日)
8月19日(日) 9月23日(日)
10月7日(日) 11月25日(日)
12月9日(日)

時間▶ 13:00~16:00

内容▶

● 学科紹介 ……学科の特色、資格、就職状況、入試などについて講義形式で説明

● 学生と話そう! …… 気になる学生生活について在學生に直接質問

● アカデミック展示 …… 十文字での学びをパネルで展示

● キャンパスツアー …… 学生ツアーガイドがキャンパスをご案内

そのほか、個別学科紹介&相談、なんでも相談コーナー、資料コーナーなど

*入退場自由、事前予約不要。詳細は大学のホームページをご覧ください。

大学院入試情報

■ 募集科/募集定員
人間生活学研究所食料栄養学専攻/5名
社会人選抜もあります。
*詳細は募集・入試センターにお問い合わせください。

【お問い合わせ】 募集・入試センター フリーダイヤル:0120-8164-10 E-mail: boshuu@jumonji-u.ac.jp